

(公財)京都市障害者スポーツ協会	平成29年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------------	--------------------------------

基本事項

所管局課	保健福祉局障害保健福祉推進室	本市出えん金	25,000 千円
基本財産/資本金	25,000 千円	本市出えん率	100.0 %

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	自律化	目標年度	平成32年度
------------	-----	-------------	--------

「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	障害者スポーツ事業等を積極的に実施するとともに、これまで実施してきた事業については、見直しや統合等を含めて検討し、さらなる障害者スポーツの普及及び施設利用者の増加を目指す。
財務面	平成29年度から開始する新指定管理期間における財務状況を見極め、光熱水費や維持管理経費のコスト削減や、会議室の利用者を増やす等収入の増加の取組を進めるとともに、施設の計画的な修繕に努めるなど、財務面の健全化にこれまで以上に努める。
組織面	職員の障害者スポーツ等に係る資格取得により、サービスの質の向上及び専門知識の取得につなげ、さらなる障害者スポーツの普及及び施設利用者の増加を目指す。
その他	特になし

当年度の取組目標に対する意見

所管局	2020東京パラリンピックに向けた障害者スポーツへの機運の高まりも受け、業務面における積極的かつ丁寧な取組により、施設利用者は年々増加傾向にあり、障害のある方の種別や程度に応じた適切な指導による効果が出ている。財務面、組織面においても、運営補助や職員派遣もなく健全に運営できており、今後も効果的効率的な運営を期待する。
------------	---

当年度の取組に対する総括(※)

団体(※)	障害者スポーツセンターと障害者教養文化・体育会館両施設において、京都市全域の障害のある人々のスポーツ・文化活動の拠点として、安全かつ安心してご利用いただけるよう、施設の管理に万全を尽くすとともに積極的に事業に取り組んだ結果、両施設を合わせ、過去最高の利用者数となり、指定管理期間の初年度としてよいスタートを切ることができた。
所管局(※)	センター発祥となるようなシンボリックなスポーツ種目の研究・開発として取り組んでこられた「円形ボッチャ」「バドミントンバレー」「転がしドッジ」の3種目を実施するなど新たな競技を創設され、障害者スポーツの裾野を広げる取組を進められた。一部施設が工事等により使用できない時期があったにもかかわらず、障害のある方の利用割合の増加に努められた。
外郭団体総合調整会議(※)	障害者スポーツセンター及び障害者教養文化・体育会館の利用者は順調に増加しており、障害者の方の利用割合も増えている。 引き続き、本市における障害者スポーツの普及促進に取り組んでほしい。

(1)業務に関する取組

目標1 「施設利用者の拡大(障害者スポーツセンター)」

中期経営計画 における取組	未作成
当年度目標	障害者スポーツ事業や文化事業の実施について積極的に取り組むとともに、施設利用の効率化を図り、年間利用者を増加させる。 平成28年度に引き続き、「全国障害者スポーツ大会」の派遣事業を行う。本大会に多くの選手を派遣することにより、障害者スポーツの普及・向上につなげる。
当年度結果 (※)	スポーツ・文化事業の積極的な取組みに加え、図書室の利用時間の拡大や稼働率の低い会議室等の利用促進について近隣地域団体に積極的に働き掛けを行い、利用者数を増加することができた。

指標①	施設総利用者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	169,406	170,000	176,552	173,000	171,857	175,000	—	176,904

指標②	教室・講習会等の参加者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	24,936	25,000	27,288	26,000	26,642	26,000	—	27,058

目標2 「施設利用者の拡大(障害者教養文化・体育会館)」

中期経営計画 における取組	未作成
当年度目標	文化事業や新しい事業の実施について積極的に取り組み、年間利用者を増加させる。
当年度結果 (※)	空調設置工事にとまなう臨時閉館により、総利用者数は減少したが、積極的な事業の展開により、1日平均の利用者数の増加とともに、障害のある人の利用割合も増加した。

指標①	施設総利用者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	27,888	28,000	31,213	30,000	31,823	33,000	—	30,925

指標②	障害のある人の利用割合 (単位：%)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	36	50	40	50	41	50	—	43

指標③	教室・講習会等の参加者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	5,822	6,200	6,627	7,000	6,190	8,000	—	7,782

目標3 「全国障害者スポーツ大会派遣事業の実施」

中期経営計画 における取組	未作成
当年度目標	平成29年度で2回目であるが、引き続き京都市と連携して、本事業の更なる充実・発展に取り組んでいく。
当年度結果 (※)	指標として設定した参加選手等の派遣者数については目標人数に達しなかったが、京都市及び京都障害者スポーツ振興会との連携により、本事業の目的を達成することができた。

指標	参加選手等の派遣者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	—	—	—	25	23	36	—	23

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成27年度		平成28年度		平成29年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	240,853	246,894	240,799	258,371	241,030	241,571	
経常費用	245,683	232,145	245,683	252,958	252,678	240,851	
当期経常増減額	△ 4,830	14,749	△ 4,884	5,413	△ 11,648	720	
当期正味財産増減額	△ 5,088	14,488	△ 5,088	5,209	△ 11,852	516	
資産合計	—	283,525	—	279,196	—	274,003	
負債合計	—	34,100	—	24,562	—	18,854	
正味財産	—	249,425	—	254,634	—	255,149	
うち累積損益額	—	224,425	—	229,634	—	230,149	

目標「施設設備の適正な維持管理と計画的な修繕」

中期経営計画 における取組	未作成
当年度目標	平成29年度から新たに始まる指定管理期間の財務状況を踏まえ、特定資産への積立により財務を圧迫することがないように、毎年度の収支の状況に応じて、積立てを行う。
当年度結果 (※)	目標額には届かなかったものの、必要額を積み立てることができた。

指標	減価償却引当資産への積立額							
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
中期経営計画	—	—	—	—	—	—	—	—
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	4,381	6,142	5,020	3,358	4,411	3,961	—	3,707

(3)組織に関する取組

目標1 「中級以上の障害者スポーツ指導員資格の取得率向上」

中期経営計画 における取組	未作成
当年度目標	中級以上の障害者スポーツ指導員の有資格者数を増加させる。
当年度結果 (※)	目標を達成することができた。

指標	中級以上の障害者スポーツ指導員資格の取得者数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	10	9	9	12	11	12	—	12

目標2 「施設間の人事交流による組織の活性化及び障害者スポーツ事業等の推進」

中期経営計画 における取組	未作成
当年度目標	両施設の利用者がもう一方の施設を利用するよう、大会や体験会等の交流事業を実施するとともに、積極的に両施設をPRし、両施設の年間利用者数の増加を図る。
当年度結果 (※)	両施設において、互いのノウハウを活用し、「交流卓球フェスティバル」等の大会、館外で実施する「タンデムサイクリング・ハンドサイクリング体験会」、「パラリンピック正式競技紹介」等の体験会やイベントを協同して取り組み、両施設の活発な交流を行った。なお、センター発祥のスポーツ種目「新規スポーツ種目」を発展・普及するための事業について、実施方法を変更したため、連携事業数は減少となった。

指標	施設間の連携事業数 (単位：事業)							
中期経営計画	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		
	—	—		—		—		
実績	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	—	—	—	90	93	104	—	72